

予報期間 1月17日から1月23日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 19日は、日本の東に高気圧が移動し、気圧の谷が日本付近を東へ進む。
- 20日は、低気圧が千島近海を東北東に進み、日本付近は冬型の気圧配置になる。
- 21日から23日にかけて、冬型の気圧配置が続き、強い寒気が流れ込む。

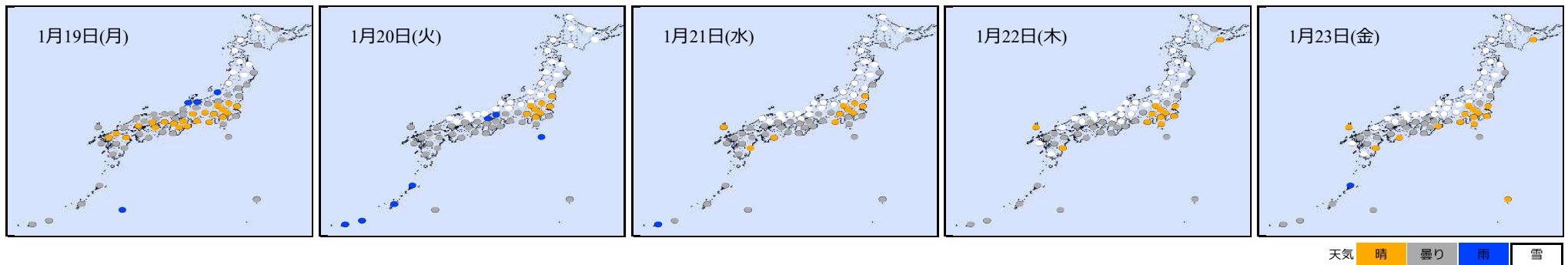
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日は、日本付近は冬型の気圧配置となる。北日本付近では気圧の傾きが急となるため荒れた天気となり、大荒れとなるおそれがある。
- 21日頃は、強い寒気が南下するため東日本から西日本にかけての日本海側を中心に強い雪が降り、寒気の程度によっては警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

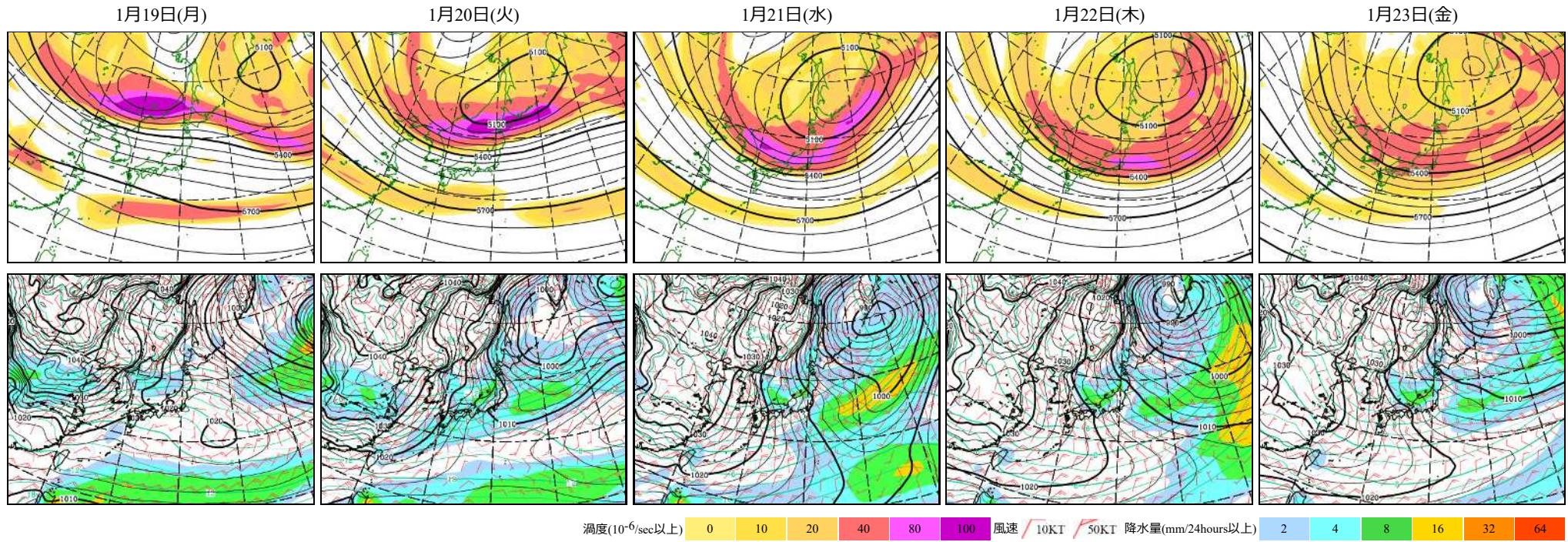
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

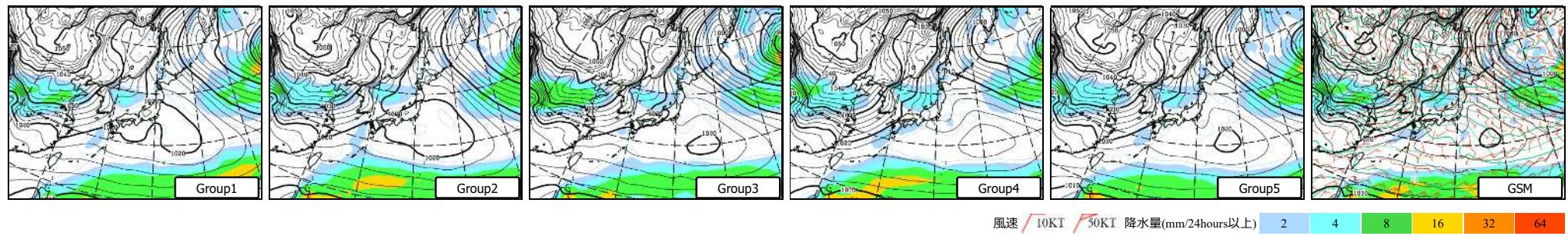


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図:500hPa高度線、渦度 下図:海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日に日本海から北日本付近に進む低気圧が不明瞭となり気圧の谷程度の表現となった。その後は冬型の気圧配置が強まる傾向は昨日資料と同様だが、20日は海外モデルの方が北日本付近の等圧線の間隔が狭い。
- スプレッドは比較的小さく、特定高度線のバラつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。